

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月26日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①社会に出て活用できる基礎、基本的な学力の定着(確かな学力の向上)を身に付けるためのきめ細かい学習指導を行う。 ②本校の育てたい生徒像の実現に向けた特色のある教育課程を編成していく。	①生徒が「わかる授業」を目指し、生徒の状況を把握したうえで「確かな学力育成」に向けた授業改善と学習環境の整備をすすめる。 ②新学習指導要領の趣旨をふまえ、本校にふさわしい教育課程の編成を行う。	①生徒による授業評価を活用した生徒の状況把握を行う。 ①授業改善のテーマを統一し、研修会や研究授業を行う。 ①授業規律等の5つのルールを継続して実施し、学習環境を整える。 ②新学習指導要領の趣旨を踏まえて、本校の目指すべき生徒像を実現する教育課程の編成をする。	①生徒における授業評価を活かし、「わかる授業」につなげることができたか。 ①授業改善のテーマを共通理解して研修会を定期的実施し、研究授業に取り組むことができたか。 ①授業規律アンケートの結果が1学期より3学期の方が上昇したか。 ②本校の目指すべき生徒像の実現に向けた教育課程を編成できたか。	①4,5月が臨時休校となり、6月からも段階的再開となったため、8月下旬、12月下旬の実施となった。 8月実施分と12月実施分を比較したところ項目4「授業で身についたことを実感した」は、1回目3.18より、0.03ポイント上がり、3.21となった。 ①授業テーマについて各教科リーダーを通して共通理解を図ったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために授業展開上の制約も大きかった。11月～12月にかけて統一テーマで研究授業を実施し、12月末に研究授業後の協議、職員全体で情報共有などを行った。 ①新型コロナウイルス感染拡大防止対応の中、時差短縮での授業展開が継続している状況のため授業規律アンケートは実施せず。 ②令和4年度入学生から実施する教育課程を編成し、教育委員会と協議中である。	①2学期末実施の授業評価と比較し、授業改善に活かす。 ①研究授業時だけでなく、学校全体で共通のテーマを継続できるよう意見交換や情報共有を行う。 ①来年度に向けて授業規律アンケートの実施準備を行う。 ②多様な進路希望に対応できる教育課程案を作成したが詳細については検討を継続して行く。	○多様性が求められている昨今であることから、果敢に挑戦し続ける必要性を強く感じる。  ○テーマを設定した授業研究は、課題の発見とその改善策が大切であると思う。職員間で改善結果を共有して、次のステップへつなげていく循環を望む。  ○令和4年度からのカリキュラムは、これからの時代を生きていく生徒の力を十分に伸ばすことのできるもの、生徒のさまざまな卒業後の進路にも対応できるものがよいと思う。	①4,5月が臨時休校となり、6月からも段階的再開となったため、8月下旬、12月下旬の実施となった。 8月実施分と12月実施分を比較したところ項目4「授業で身についたことを実感した」は、1回目3.18より、0.03ポイント上がり、3.21となった。 ①授業テーマについて各教科リーダーを通して共通理解を図ったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために授業展開上の制約も大きかった。11月～12月にかけて統一テーマで研究授業を実施し、12月末に研究授業後の協議、職員全体で情報共有などを行った。 ①新型コロナウイルス感染拡大防止対応の中、時差短縮での授業展開が継続している状況のため授業規律アンケートは実施せず。 ②令和4年度入学生から実施する教育課程を編成し、教育委員会と協議中である。	①2学期末実施の授業評価と比較し、授業改善に活かす。 ①研究授業時だけでなく、学校全体で共通のテーマを継続できるよう意見交換や情報共有を行う。 ①授業規律の徹底に向けて、来年度のアンケートの実施準備を行う。 ②多様な進路希望に対応できる教育課程案を作成したが詳細については検討を継続して行く。
2 生徒指導・支援	①モラル・マナー・ルールを遵守する心を育成し、高校生として良識ある行動ができるように規範意識を高める。 ②コミュニケーション能力を育成するとともに、様々な生徒がそれぞれの得意分野で主人公となって学校生活や学校行事に取り組めるような支援体制の充実を図る。	①服装指導、頭髪指導期間を中心に、全職員での指導体制の充実を図る。 ①バイクの安全な活用を徹底すべく、交通安全教育の充実を図る。 ②生徒の自発的活動を促し、生徒会本部役員生徒の活動や部活動の活性化を図る。 ②SCやSSW及び外部組織と連携し、様々な問題を抱える生徒を全職員で支援するための教育相談体制を構築する。	①服装指導、頭髪指導の基準を生徒・保護者に明示するとともに、共通理解のもと全職員で継続していく。 ①定期的な講習会等を実施し、交通安全への意識を高める。 ②生徒総会や学校運営協議会への参加など、生徒会活動の一層の活性化を図る。また、部活動加入を促進し、継続のためのサポートを行う。 ②一人ひとりの状況に対応した支援をするために、SCやSSW及び外部組織との協働体制を	①制服着用の徹底ができたか。頭髪指導の成果を認めることができたか。 ①充実した講習会等が実施できたか。 ②生徒会本部役員生徒と連携した活動を行うことができたか。 ②部活動に加入する生徒が増加したか。継続して活動ができる部活動が増加したか。 ②SCやSSW及び外部組織との適切な情報共有により、問題解決につなげることができたか。	①服装・頭髪指導期間を通じて、身だしなみを整える生徒の人数が目に見えて増えた。 ①講習会を通じて交通安全への意識を高めることができた。(12月4日実技講習を開催) ②例年とは異なり生徒会活動が大幅に縮小されたが、企画の変更等を生徒会本部役員と連携して行い活動することができた。 ②今年度の新入生部活動加入率が43%と昨年度の26%を大きく上回った。特に体育館で活動する部活動への加入が多かった。 ②担当者を中心に、SCやSSW、児童相談所、子育て支援センターと連携し、情報共有を密にすることで、生徒一人ひとりに対応した支援をすることができた。	①指導期間外でも、常に身だしなみを整える習慣を身に付けられるよう継続的に指導していく。 ①生徒の交通安全への意識をより高めるため計画的に講習会を開催する。 ②生徒会役員を中心に、生徒の意見を反映させた生徒会行事となるようサポートを強化していく。 ②来年度も多くの生徒が部活動に加入するよう仮入部を促しながら活動の活性化を図るとともに、部活動継続を視野に入れた予算面での支援を行う。 ②全職員で生徒一人ひとりを支援できるような情報共有ネットワークの構築を模索する。	○原動機付自転車を通学的手段として認めたことから、バイクに限らず、交通安全全般にわたって、安全教育を強化徹底していった。  ○部活動に参加する生徒も増えてきていると聞いている。部活動は子どもの成長にとってとても意義のあるものと思うので、これからも頑張らせて欲しい。	①服装・頭髪指導期間を通じて、身だしなみを整える生徒の人数が目に見えて増えた。 ①講習会を通じて交通安全への意識を高めることができた。(12月4日実技講習を開催) ②例年とは異なり生徒会活動が大幅に縮小されたが、企画の変更等を生徒会本部役員と連携して行い活動することができた。 ②今年度の新入生部活動加入率が43%と昨年度の26%を大きく上回った。特に体育館で活動する部活動への加入が多かった。 ②担当者を中心に、SCやSSW、児童相談所、子育て支援センターと連携し、情報共有を密にすることで、生徒一人ひとりに対応した支援をすることができた。	①指導期間外でも、常に身だしなみを整える習慣を身に付けられるよう継続的に指導していく。 ①生徒の交通安全への意識をより高めるため計画的に講習会を開催する。 ②生徒会役員を中心に、生徒の意見を反映させた生徒会行事となるようサポートを強化していく。 ②来年度も多くの生徒が部活動に加入するよう仮入部を促しながら活動の活性化を図るとともに、部活動継続を視野に入れた予算面での支援を行う。 ②全職員で生徒一人ひとりを支援できるような情報共有ネットワークの構築を模索する。

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月26日実施)	総合評価(3月31日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	<p>①一人ひとりの進路実現に向けて、職業観や勤労観を育成できるよう、計画的かつ継続した指導体制及び支援体制の充実を図る。</p> <p>②福祉科においては、介護福祉士養成を主とした福祉教育の充実を図る。</p>	<p>①自らの進路実現に向け、学部・学科の理解を深め、また職業観や勤労観を育成し、系統的な指導や支援の充実を図る。</p> <p>②地域の福祉人材を養成する専門学科としての役割を担う。</p>	<p>発展させていく。</p> <p>①多様な進路希望がある学校として、「総合的な探究・総合的な学習の時間」を中心に、進路面談の充実や、様々なガイダンス・講習を企画実施する。</p> <p>①適切な時期にオープンキャンパスやインターンシップ等の進路情報を提供し、自らの体験や集めた情報を進学や就職に活かせるようにする。</p> <p>②福祉科を中心とした地域交流を行う。</p> <p>②資格取得に向けた対策講座の充実や介護業界で活躍する卒業生との交流を深める。</p>	<p>①計画的にカウンセリングやガイダンス等を実施し、その内容を充実させることができたか。</p> <p>①(新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で)進路希望に沿った情報収集や活動を実現し、進路実現につなげることができたか。</p> <p>②福祉科を中心とした地域交流が活発に行われたか。</p> <p>②介護職員初任者研修課程及び介護福祉士の国家試験合格率が上昇したか。</p> <p>②介護業界で活躍する卒業生との交流をおこなえたか。</p>	<p>①夏休みには小論文対策、面接ガイダンスを実施し、例年より多くの生徒が受講できた。</p> <p>①新型コロナウイルス感染症の影響で就職活動時期などに変更が生じたが、生徒が不安にならないように進路別の説明会などを実施し情報提供を行った。情報収集の場である、オープンキャンパスやインターンシップに参加させることはできなかったが、会社見学には多くの生徒を積極的に参加させることができ、進路実現につなげられた。</p> <p>①大学進学者の割合は微増したが、進路未決定者の割合も微増した。</p> <p>②新型コロナウイルス感染拡大防止のため地域交流を実施できなかった。</p> <p>②課程修了結果及び合格発表は3月の予定。</p> <p>②卒業生との交流は介護実習の中で行うことができた。</p>	<p>①会社見学や面接、入試にリモートが導入されてきたことから、学校でのリモート実施にあたり、サポートの充実をはかる。</p> <p>①ガイダンスでも3密にならないように配慮し、志望校の情報収集にZOOMやGoogle Meetの活用も検討する。</p> <p>②コロナ禍における交流の在り方を考えて従前とは異なる形を追求していく。</p> <p>②資格取得に向けた教材開発に取り組む。</p> <p>②卒業生から学ぶ機会を設けていく。</p>	<p>○全国的に高校生の離職率が4割に達すると聞いている。ミスマッチのないよう就職指導を進めて欲しい。相模原市にもよい企業はたくさんあるので、地元地域へも生徒の目が向くような指導を期待する。</p> <p>○進学、就職を問わず、コロナ禍でこれまでとは状況も変わってきていると思うので、新たな取組を工夫してもらいたい。</p>	<p>①夏休みには小論文対策、面接ガイダンスを実施し、例年より多くの生徒が受講できた。</p> <p>①新型コロナウイルス感染症の影響で就職活動時期などに変更が生じたが、生徒が不安にならないように進路別の説明会などを実施し情報提供を行った。情報収集の場である、オープンキャンパスやインターンシップに参加させることはできなかったが、会社見学には多くの生徒を積極的に参加させることができ、進路実現につなげられた。</p> <p>①大学進学者の割合は微増したが、進路未決定者の割合も微増した。</p> <p>②新型コロナウイルス感染拡大防止のため地域交流を実施できなかった。</p> <p>②課程修了結果及び合格発表は3月の予定。</p> <p>②卒業生との交流は介護実習の中で行うことができた。</p>	<p>①会社見学や面接、入試にリモートが導入されてきたことから、学校でのリモート実施にあたり、サポートの充実をはかる。</p> <p>①ガイダンスでも3密にならないように配慮し、志望校の情報収集にZOOMやGoogle Meetの活用も検討する。</p> <p>②コロナ禍における交流の在り方を考えて従前とは異なる形を追求していく。</p> <p>②資格取得に向けた教材開発に取り組む。</p> <p>②卒業生から学ぶ機会を設けていく。</p> <p>③若手教員が増えてきているので、進学、就職ともに、教員の指導スキルアップを図るとともに、進路決定率の向上を目指す。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域の中の高校として、本校を含めた地域の活性化を図るとともに、地域に貢献できる人材育成を推進していく。</p> <p>②学校の情報を積極的に発信し、家庭や地域社会から理解され愛される学校づくりを推進する。</p>	<p>①コミュニティスクール各部会での取り組みを充実させ、地域との交流協働を深めていく。</p> <p>②学校行事や、PTA活動をとおり家庭との連携を図り、学校の情報を積極的に発信できる方法を考えていく。</p>	<p>①コミュニティスクールの各部会の活動を活発に行う。</p> <p>①地域との連携を深めるために、学校を理解していただく取組を充実させる。</p> <p>②学校行事などにPTA役員や保護者が参加できる機会の提供を進めるとともに、広報誌・HP等で活動を家庭に発信していく。</p>	<p>①各部会が活動を活発に行うことができたか。</p> <p>①地域に学校が受け入れられ理解を得ることができたか。</p> <p>①具体的な協働のスタイルが確立できたか。</p> <p>②行事への保護者の参加が増えたか。</p> <p>②保護者面談などの際、学校の様子・行事等の話題が増えたか。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染拡大防止のためコミュニティスクールは書面開催(送付)とし、地域コーディネーター部会も活動は実施できていない。</p> <p>②今年度、行事が制限されているため、保護者の参加等について目標の達成は難しい。その後学校の活動をホームページやフェイスブックに掲載するようにした。</p>	<p>①リモート会議などの開催を検討する。</p> <p>①コロナ禍における活動の方法を考える。</p> <p>②感染対策を行いながら、学校行事が再開されるのが必須である。</p>	<p>○これからは、学校だけでなく地元地域とどう交流連携していくかが、津久井高校の未来に大きく影響すると思う。生徒が地域へ出ていく取組、地域が学校に関わる取組を積極的に展開してもらいたい。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染拡大防止のためコミュニティスクールは書面開催(送付)とし、地域コーディネーター部会も活動は実施できていない。</p> <p>②今年度、行事が制限されているため、保護者の参加等について目標の達成は難しい。その後学校の活動をホームページやフェイスブックに掲載するようにした。</p>	<p>①リモート会議などの開催を検討する。</p> <p>①コロナ禍における活動の方法を考える。</p> <p>②感染対策を行いながら、学校行事が再開されるのが必須である。</p> <p>②コロナ禍における地元地域との交流場面や方策を追求して実現していく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①働き方改革を推進し、生徒と教員が相互に関わる時間の確保を行う。</p> <p>②防災意識を高め、自分のいのちは自分で守る防災教育の充実を図る。</p>	<p>①ICT機器の活用を進め、職員間の情報共有や校務のICT化を推進する。</p> <p>②災害の恐ろしさや学校周辺の危険箇所を理解させるとともに適切な備蓄を計画的に行う。</p> <p>②感染症の予防に関する知識を深める機会を設定する。</p>	<p>①職員間の連絡や校務に利用するICT機器やソフトウェアの整備を進める。</p> <p>②災害、感染症から自分の身を守るため知識の習得と意識の向上のための避難訓練やLHRを企画する。</p> <p>②防災用品の備蓄の際、食料に加えマスク・消毒用品の購入も行う。</p>	<p>①ICT機器の活用による情報共有や校務への活用が進んだか。</p> <p>②企画を通して身を守るための知識が生徒に定着したか。</p> <p>②適切な品目と量を計画的に備蓄することができたか。</p>	<p>①teamsの校務活用研修、G-suiteの教材への活用研修を行い校務や教材提供を円滑に行うことができた。</p> <p>②防災LHRを計画し、避難経路の確認にとどまらず、防災意識の向上を図る教材を用意して実施。</p> <p>②防災備蓄食料は、適切な品目と、量を備蓄することができた。</p>	<p>①活用の研修を行ったが、ソフトによっては、活用まで至っていない。</p> <p>活用の具体的事例を研究していく。</p> <p>②人が密集しない方法を考えながら、より実践的な訓練を考えていくことが必要である。</p>	<p>○新型コロナウイルス感染拡大防止策として、リモート会議の可能性を迫りし実施できるようになるといいと考える。</p> <p>○防災教育はこれからますます重要になってくると思う。地域とも連携しながら実効ある教育を進めて欲しい。</p>	<p>①teamsの校務活用研修、G-suiteの教材への活用研修を行うことができた。</p> <p>②防災LHRを計画し、避難経路の確認にとどまらず、防災意識の向上を図る教材を用意して実施。</p> <p>②防災備蓄食料は、適切な品目と、量を備蓄することができた。</p>	<p>①活用の研修を行ったが、ソフトによっては活用まで至っていないので活用を進める手立てを講じていく。</p> <p>活用の具体的事例を研究していく。</p> <p>②人が密集しない方法を考えながら、地域とも協働したより実践的な訓練を考えていくことが必要である。</p>

